



こーひーぶれいく

国際学会をもっと台湾で 開催して欲しいんです！

永津 弘太郎

Nagatsu Kotaro

商売柄、私の日常は加速器の運転時間、通称マシンタイム（ピームタイム）に強く支配されている。筆者らの施設では半年に1度、およそ3週間の日程で加速器のメンテナンス期間が組まれるため、これを境に1年の前半と後半が分けられる、そんな生活様式が10年以上続いている。

この3週間は加速器だけではなく、職場の居間や商売道具に相当する実験室・装置に対しても、日頃の感謝を込めてメンテナンスする時だ。しかし、他人に厳しく自分に甘い私は、「機械だけじゃなくて俺にもメンテナンスが必要」と、同僚の心には全く響かない理由を散々こねくり回し、1週間ほど妻と共に旅に出る、という生活も同じように続いている。日本の文化・風習に則り、年度初めの4月から半年間働くと、およそ9月初旬から中旬、そして年度末の3月だ。残暑のなかor場所を選べば初秋or冬の寒さが緩み、どうやら今年も無事に花粉の刺激を感じ始めたな、という季節感が、旅の合図とも言える。

近年のお気に入りには、台湾だ。何が魅力なんだろう？と思うことしばし。海外旅行をネタにしておきながら、実は生来の引きこもり特性、主任級自宅警備員の素養を持つ私にとって、outside Japanは得意ではない。国際学会や海外出張といえば、お腹が痛くなるほど苦手な部類の仕事である。ところが台湾への個人旅行となると、外国へ行くときの変な緊張感を抱かずに、行きたいという気持ちが勝る。そんな不思議が台湾にはある。

客観的によく語られる台湾の魅力とすれば、飛行機で約3時間と距離が近いところ。明らかに外国だけれど、どこか懐かしい昭和の頃の日本を感じられるところ。それでいて、日本よりも進んだIT文化が、見事に現代社会と融合し機能しているところ。なんだかクセがあっておいしいものが多いところ。

果物が南国特有の圧倒的濃縮滋味にあふれているところ。夜市が充実、というか、日常生活の一部になっているところ。ちょっと都心から離れると、同じ国か？と感じる



ほどに街の雰囲気香ばしくなるギャップを楽しめるところ。親日家も多く、日英中語に筆談を織り交ぜた双方全力の会話が面白いように成立するところ等。途中、主観も含めて書いてみたが、要はアツいのだ。

そして、私が最も惹かれるフェイバリット台湾といえば、街の景色に溶け込んでいる漢字である。欧米諸国の表音文字があふれる街並み、あるいは中国本土と異なり、日本人の目に優しい繁体字が使われる台湾では、外国なのに、中国語を全く学んでないのに、何となく文字が読めちゃうお得感がたまらない。ちょっとした想像力を加えると意味が理解できる知的な刺激もいい塩梅だ。

さて、旅の締めにはお土産漁りが欠かせない。さほど心の成長を遂げていない大きな理科キッズの私と、第1種放射線取扱主任者の資格を持つ妻が自信をもってお伝えする我が家のお勤めは、費先生(www.mr-sai.com)、理科グッズ屋だ。例えば、個々の元素が漢字で書かれた週期表(周ではない)のマグカップ。右下の方、厄介な石(砒)と充てられた元素漢字？は、 α 線治療薬で注目されるAtの位置にある。なるほど、揮発性もあるし許可数量も取りにくい。廃棄物もまさに厄介。表意文字の文化、漢字の力を上手く活かしてるなあ、と妙に感心。こんな小話を、学会発表の1コマに使えるところもおいしかったりする。また、普通の元素記号(英字)が大きく1つ書かれたマグカップも人気だとか。店員さんによれば、1番人気はAuマグ、次点はEsマグだそうで、お金持ちや天才への憧れ？と言う。納得だ。

ふと横を見ると、妻がPoと書かれたマグを買っている。何を企んでいるのか全く不明だが、帰国して以降、なんとなく家のご飯が怖い……。

((国研)量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所)